はことはこ　- 刈谷市駅前商店街を事例とした居場所の提案 -

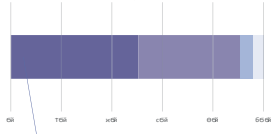
すぐに行ける　近くの居場所　はこを持って移動して　お店も潤う

建 C04　溝上愛

1　背景と目的　- 商店街の衰退とコロナウイルス -

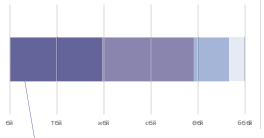
近年、大型ショッピングモールの台頭、モータリゼーションの進展、建物の老朽化、後継者不足などが原因となり商店街が衰退の傾向にある。また、新型コロナウイルスの流行により、人々は社会との繋がり、生活の質を重視するように変化してきた。

Q1　今回の感染拡大前に比べて
社会との繋がりに関する意識は
どのように変化しましたか。



社会との繋がりの重要性をより意識するようになった　50　%

Q2　今回の感染拡大前に比べて
ご自身の「仕事と生活のどちらを重視したいか」
という意識に変化はありましたか。



生活を重視するように変化　39.3　%

引用：　内閣府　（令和２年 6/21）．新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査

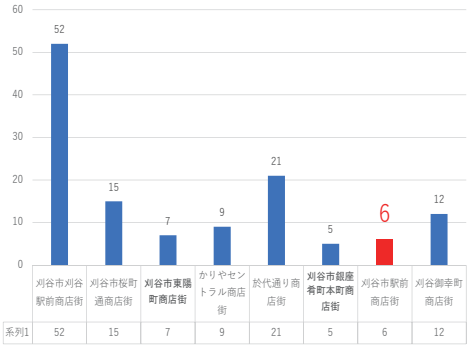
いまはシャッター街となってしまった商店街も、周辺住民にとっての利便性の良さや、日用品が集まることからかつては人々の生活の場であり、人間同士の繋りがあった場所であった。同時に商店街は住民の居場所でもあった。
新型コロナウイルス流行下の今、再びリアルな繋がり、自分の居場所を求めて、新しい商店街を提案する。

2　敷地選定 - 刈谷市駅前商店街の現在とこれから -

名鉄三河線刈谷市駅の北側に位置する刈谷市駅前商店街は昭和 55 年頃までは定期的に歩行者天国が実施されるほどの賑わいがあった商店街であった。
しかし平成 26 年の時点で店舗数が 6 と市内の他の商店街と比べて少なく、商店街の衰退が進んでいる。

一方、商店街の衰退とは対照的に

刈谷市駅前商店街における商店・事業所数（平成 26 年）



ｉ）周辺で高層マンションの建設が進んだこと

ii）他の三河地区の発展とアクセスの良さから刈谷市駅周辺が注目されていること

以上の事から人口が増加すると予想されサードプレイスのニーズがあると考えられる。

3　敷地選定 - 対象の建物の現状 -

対象の敷地は刈谷市駅の北西に位置するブロックで、対象建物は敷地東側の 3 棟と商店街裏の寺の境内、公園を含めたエリアとした。
　対象の建物の状態は
①鉄骨造 3 階建、老朽化が進む
②鉄骨造 3 階建、老朽化が進む
③軽量鉄骨造 1 階建の倉庫
と老朽化が目立ち、人が近づきにくい印象のある建物である。

4　空間の検討　- なわばり意識から考える居場所の分類 -

既往研究より、本研究では居場所とは「ありのままでいられる」「役に立っていると思える」という感覚が引き起こされる空間とする。それらはなわばりの強弱により居場所への所属意識が変わるのではないかと考えた。
そこで、従来の居場所、サードプレイスに当てはまる空間を空間の操作の大小、居場所の許容度（縄張り意識の強弱）で分類し特徴をまとめた。

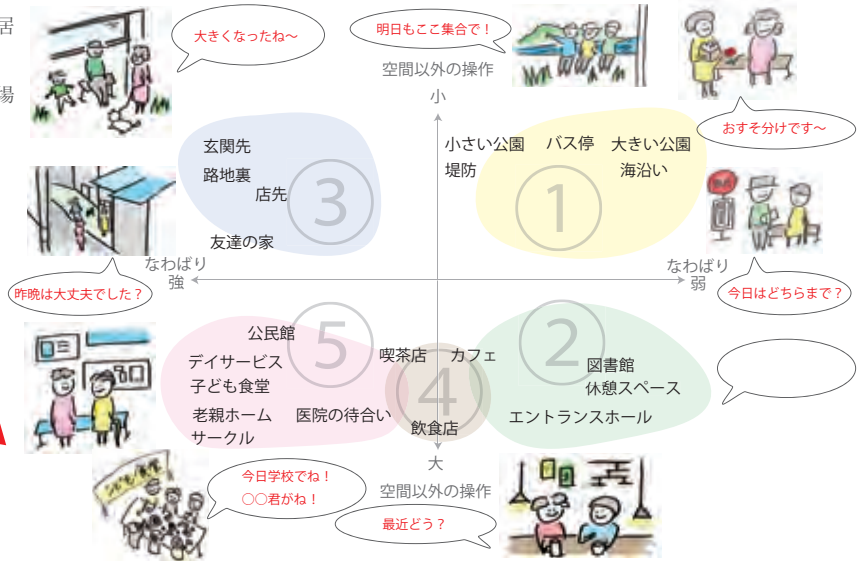
ファーストプレイス	セカンドプレイス	サードプレイス
家・自分の部屋	学校や職場	?

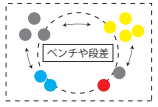
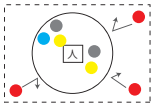
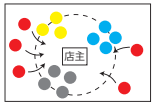
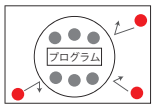
図書館	デイサービス	休憩スペース
公園	友達の家	エントランスホール
子ども食堂	病院	公民館
カフェ	店先	海沿い
老人ホーム	玄関先	堤防
喫茶店	バス停	サークル活動

など様々な場所があり
地域や個人によって異なる

引用：　石本雄真　「こころの居場所としての個人的居場所と社会的居場所」

分類



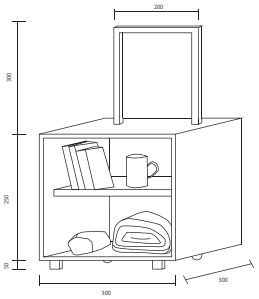
	①なわばりが存在しない屋外空間	②なわばりが存在しない屋内空間	③なわばりが存在する屋外空間
構成図			
中心	ベンチや段差	椅子や机	人
特徴	グループ、グループ同士、他人同士が同じ空間を共有するお互いに開放的な関係	グループ、グループ同士、他人同士が同じ空間を共有するがお互いに閉鎖的	お互いに信頼関係が築かれ、集まりへの帰属感が生じる、顔見知りには開放的で他人は介入しにくい
発生	自然発生	自然発生	自然発生
	④カフェタイプの空間	⑤プログラムによる空間	
構成図			
中心	店主	プログラム	
特徴	ふれあいを目的とした店主や食を通じて関係が築かれる顔見知りにも開放的で他人も介入しやすい	プログラムの活動から関係ができる同じ年代、境遇同士が集まりを形成しやすい	
発生	仕掛けあり	仕掛けあり	

- サードプレイスとは -

義務や必要性に縛られず自らの心に従い進んで向かう場所のこと。

自分らしさを体現しストレスや精神的不安を軽減する効果があるとされ、人の生活にうるおいを与える

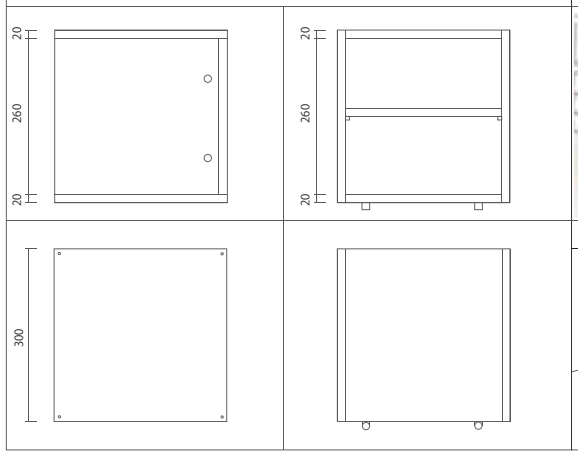
5　プログラム　- 商店街と居場所を繋ぐ“はこ”-



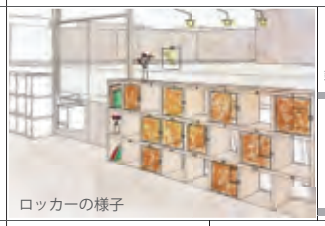
居場所の分類の結果より、現在の敷地の大半を占める寺や公園の許容度が低い（なわばり意識が強い）空間では、居場所は自然発生的に生まれ、誰かがそこを自分のなわばりとしなければ居場所としての機能を持つことができないことが分かった。

そこで、商店街と居場所を繋ぐ仕組みとして“はこ”を提案する。
利用者の所有物がある場所を自分のテリトリーと感じる心理を利用し、よく読む本や筆記用具、マグカップをはこに入れて商店街内外で自分に合った居場所を見つける。

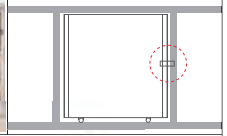
はこ詳細図面



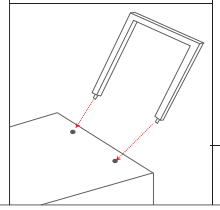
はこの使い方



はこのロッカーが建物内のあちこちに設置されている。鍵をかけて保管する。

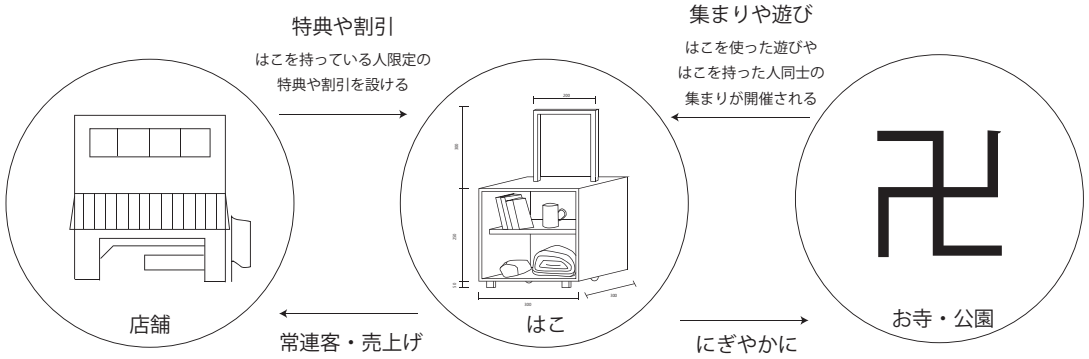


持ち運び方法



店舗で貸出される取っ手の棒をはこに取り付けキャリアケースのように引きながら移動する

敷地内でのはこの繋がり

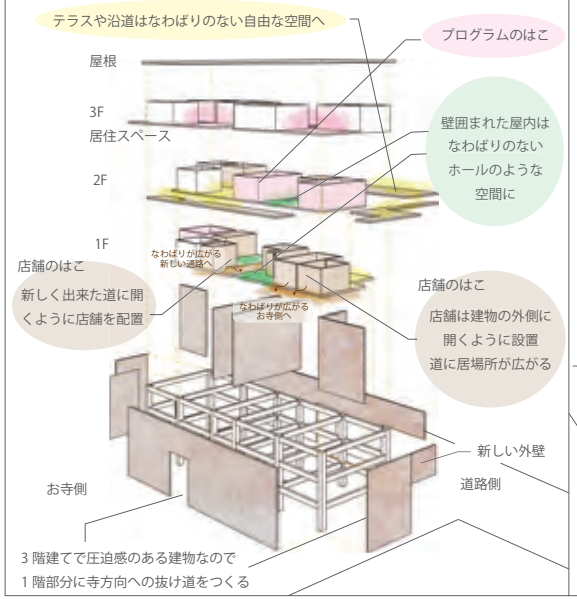


はこを利用者が持ち運ぶことで商店街外部に人の居場所が広がり、閑散としていた商店街裏のお寺や公園の活性化に繋がる。はこを通して建築と人が交わる商店街となる。

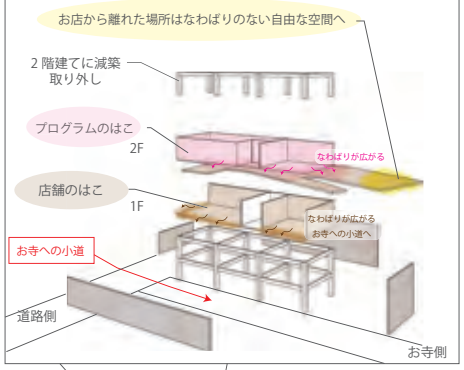
6　ゾーニング　- 敷地・建物の現状からみた居場所の配置 -

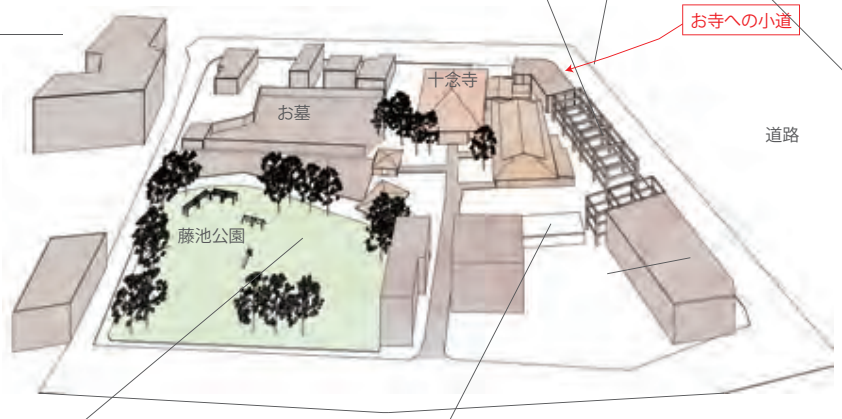
現在の敷地と建物の特徴を活かしながら
居場所となる空間を創り出す。

建物①
骨組みだけを残し新しい壁、間仕切り、テラスを設置する。
奥行のある特徴と３階建ての大きな空間を活かし店舗を配置し縦方向と横方向に繋がりをもたせる



建物②
３階建ての建物に囲まれお寺への小道に圧迫感を与えているため２階建てに減築する。骨組みだけを残し新しい壁、間仕切り、テラスを設置する。奥に伸びる特徴を活かし寺側に人を誘い込むように店舗を配置



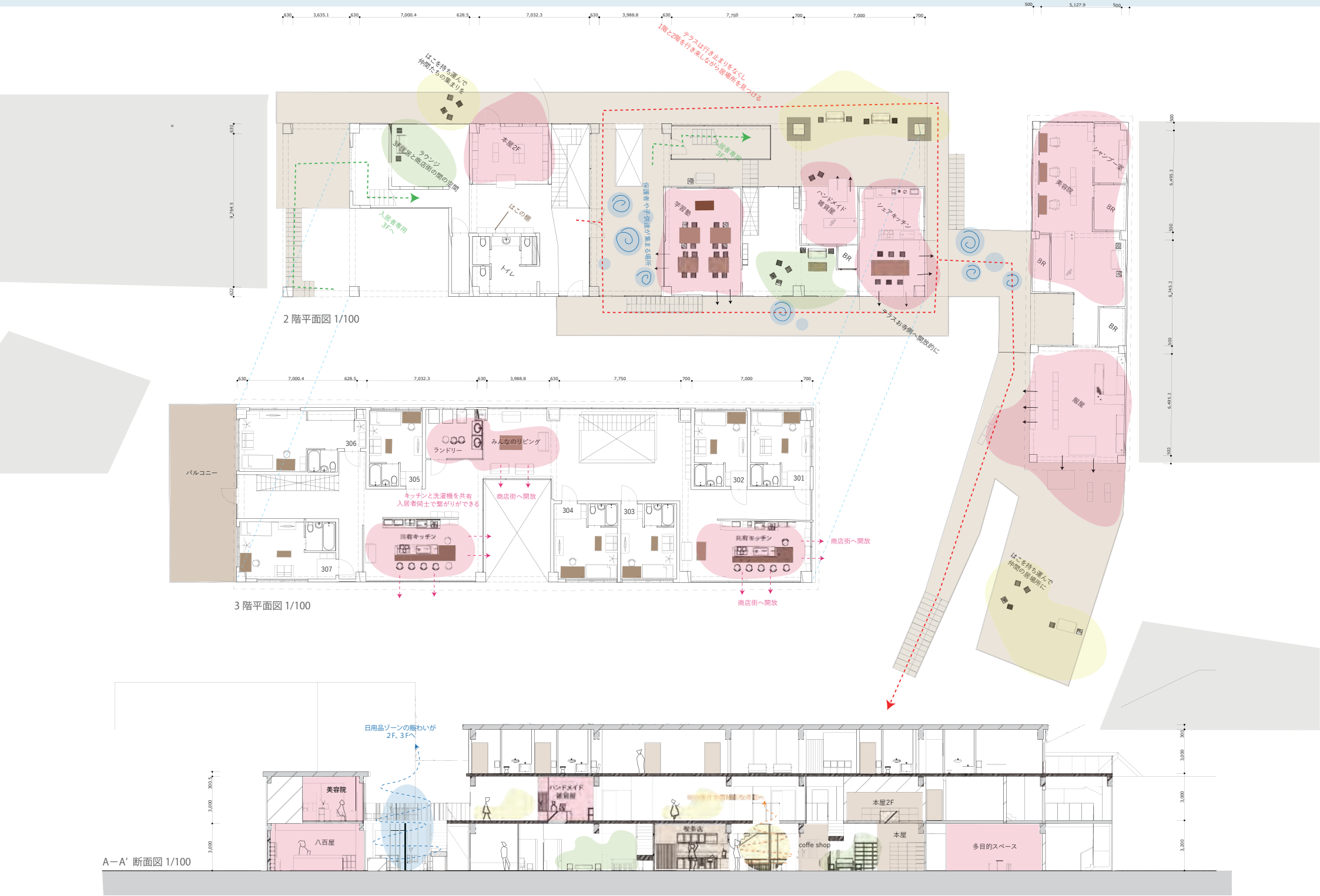


公園のテラス
はこの制作を行うテラスを設置する
制作を行わないときははこと一緒に座れる空間になる。

建物③
取り壊し、新しく建築する。
他の２つの建物と合わせ１階建ての店舗をつくる
お寺の小道側に開放する

7　設計提案　- 配置図・１Ｆ平面図 -

7　設計提案　- 2 F3F 平面図・断面図 -



お寺への小道
顔見知り同士が立ち話で盛り上がる

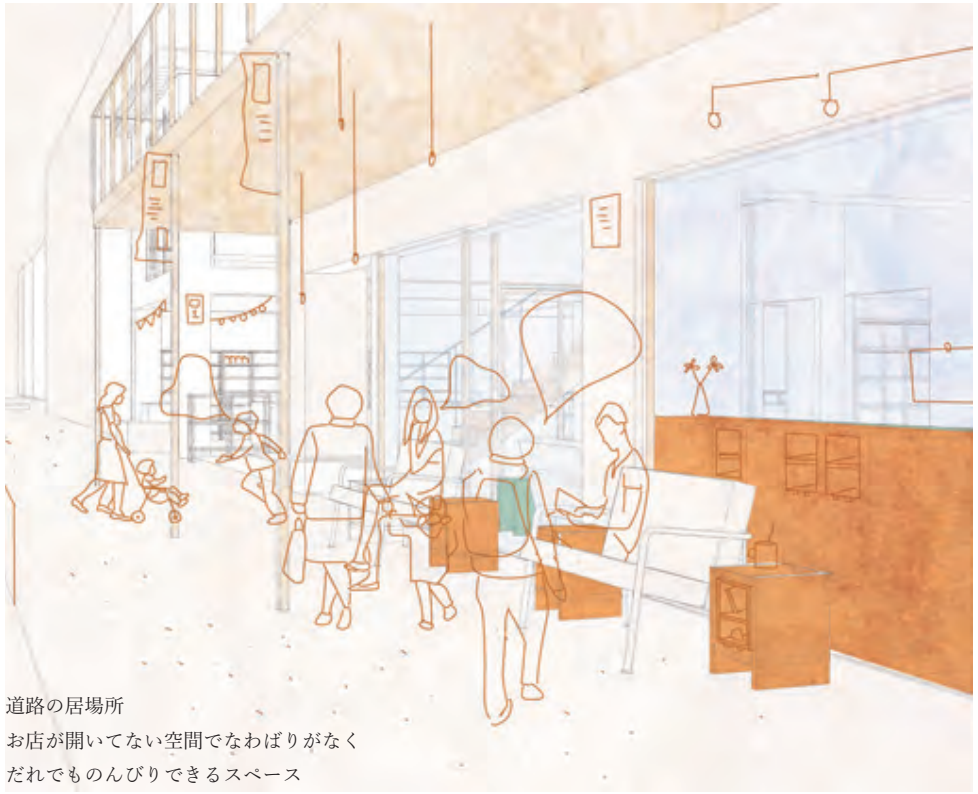
喫茶店
いつもの常連客でにぎわう
今日はこを持っている人限定コーヒー１杯無料

店舗と店舗の間
ホールのような空間に
宿題したり会議をしたり

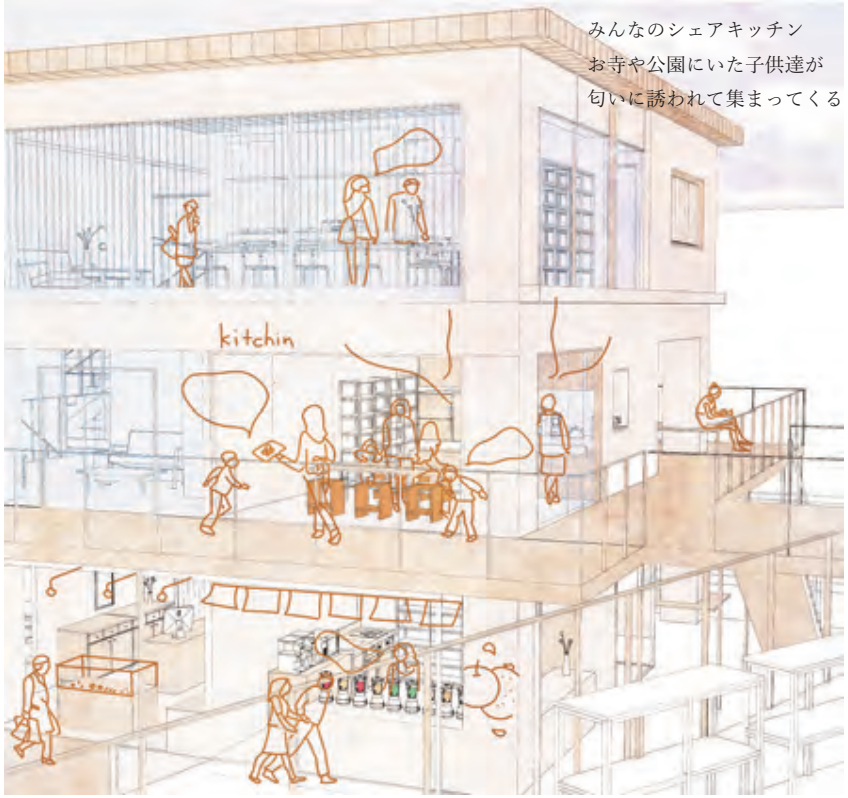
３F 入居者の共有キッチン
一緒に過ごす時間が増えて仲良くなる
お店の情報交換の場となる

本屋
はこをもっていれば
敷地内でどこでも立ち読み可能

２Fのテラス
はこを持ち寄って仲間と過ごす時間



道路の居場所
お店が開いてない空間でなわばりがなく
だれでものんびりできるスペース



みんなのシェアキッチン
お寺や公園にいた子供達が
匂いに誘われて集まってくる